

円陣～エンジン～



令和元年 8月 9日
根獅子小 校内研修通信 No5
文責 松田 優子

夏休みも後半戦に入りました。夏休みといえども、暑い中に様々な研修があり、あっという間の前半戦ではなかったかと思います。

7月30日に中部中学校で3校合同の人権教育推進会議がありました。教頭先生と松田で参加してきました。研究発表の日程等々決まったことがありますのでお知らせいたします。

- ① 令和2年11月2～3週目
- ② 授業の本数・授業研究会の内容・時間などは、各校に任せる。午前の終了時刻を11時45分でそろえる。
- ③ 研究紀要・・・一冊にまとめる
- ④ 学習指導案・・・その日の授業の分のみを小学校1冊，中学校1冊でまとめる。
【決】【存】【共】の記入を行う
児童観に現在の学び合いの様子を記入する。
人権としての目標・評価の記入はしなくてよい。
- ⑤ アンケートの実施・・・Q-Uアンケートから人権にかかわる20項目を抽出し、学年の始めと終わりで評価を行う。(別紙資料)
- ⑥ 算数アンケートの実施・・・紐差小学校と統一し実施する。2学期の初めには。
- ⑦ 共通実践としては・・・のぼりや横断幕による人権意識の啓発，ペアやグループによる主体的・対話的な学習



そこで、先生方に提案です。

- ◇ 授業の本数について・・・指導助言者の都合や職員数、また参加者数のことを考え、公開授業を
1本とする。
- ◇ 授業時間を早めにする・・・紐差小学校，中部中学校とずらし，藤井先生に参観していただく。
- ◇ 授業研究会について・・・1時間30分は確保したい。
ワークショップ型 指導案拡大法+KJ法で研究会を行う。

御検討をお願いします！！

☆こんな話もありました。

授業だけでなく、普段の生活の中から人権感覚を磨くことが大切である。(人権の基礎体力を高める。) 教師も子どもも。教師の意識改革。(人権感覚チェックシートへ裏面)子どもの良いところを認め、褒める。通信などで発信する。

まず基本は、学級が楽しいと思うことから。そして、安心して学ぶことができる授業。自分の居場所がある。自分の意見を聞いてもらえる。子どもとの毎日の関りをさらに良いものにしていきましょう。

人権感覚チェックシート

(熊本市教育委員会のものより抜粋)

※自己チェックをしてみてください！！

No.1	子どものその日の様子（表情・健康状態など）を感じ取るように努めている。	
No.2	一人一人の発言を大切に取り上げている。	
No.3	子どもの自由な発想や方法を認め、自己選択・決定ができる場の工夫を行っている。	
No.4	子どものよさや頑張りを認め、友達に知らせている。	
No.5	ペアやグループによる話し合いなど、協力して学び合う場を確保している。	
No.6	話しを最後まで聴いたり、誤答を大切にしたりして子どもの意欲を損なわないようにしている。	
No.7	子どもの問題行動（発言）を放置せず、その背景を知るように努めたり、適切に指導したりしている。	
No.8	子どもの名前には敬称をつけて読んだり、丁寧な言葉遣いをしたりなど温かい言語環境に心がけている。	
No.9	子どもの作品には、励ましや称賛の言葉を添えて掲示している。	
No.10	掲示物は人権に配慮している。（忘れ物している児童の名前を掲示していないか。全員の作品が掲示されているか。）	

気づき

こうして考えてみると・・・

人権教育推進と生活指導との関りは大きく、例えば1学期の反省で出た、「呼び捨てにしない」という問題も人権の観点からもとても大切であるし、毎学期の始めと終わりに行っている「個人面談」も児童の話を聞く、児童理解につながっているし、その2つが両輪となって進んでいくことが大切なのだと思います。

2学期から子ども支援会議の際に「問題行動」や「指導すべき点」以外に子どもの良いところを担当外の先生の視点で話してもらうことも取り入れてみてもよいのではないのでしょうか。

教師の人権感覚を磨くための方策など先生方でアイデアがあれば、ぜひぜひ教えていただければと思います。